

## 次号予告

### 特集 ORの再挑戦

これからのOR……………近藤次郎(日本学術会議)  
これからのOR人に望む……………森口繁一(東京大学)  
これからのOR……………榎木義一(システム総研)  
ORに期待するもの……………野村淳二(松下電工) 同…  
…石堂一成(マッキンゼー) 同……………諸星拓二(ソニー)  
ORを学ぶ人たちに……………原野秀永(文教大学) 同…  
…権藤元(近畿大学) 同……………千住鎮雄(国際大学)  
ORに「夢」を……………転馬潤(建設省) ORの適用  
範囲の拡大をめざして……………伊藤武寿(ティージー情  
報ネットワーク) 投資と金融のOR……………竹原均  
(MTBインベストメント), ORと私:大御所のお  
言葉……………末吉俊幸(オハイオ州立大)

## オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長	高森 寛	青山学院大学
副委員長	高井 英造	三菱石油㈱
委員	相沢りえ子	㈱構造計画研究所
	上野 哲郎	和光大学
	大村 雄史	住友商事㈱
	片山 隆仁	防衛庁
	川合 庸一	川合産業研究事務所
	木嶋 恭一	東京工業大学
	新村 秀一	住商コンピューターサー ビス㈱
	町原 文明	日本電信電話㈱
	宮田 雅智	青山学院女子短期大学
	矢部 博	東京理科大学

**編集後記**●今月号は「研究開発マネジメント」を特集しました。大学・研究所はもちろんのこと、最近では企業においても特に基礎研究が重視され、それにともない研究と技術開発の適切な評価が必要不可欠のものとなってきています。しかしながら、いわゆる物的生産活動とは違って知的頭脳活動のそれは困難であり、そのため、独創性のある研究開発にうまくつながるマネジメントに注目が集まるのは当然のことといえるでしょう●技術立国を自負しているわが国の大学で「研究開発マネジメント」の分野の教育と研究が体系的に行なわれているということ、少なくとも私は耳にしたことがありません。創造的な研究を動機づけるのは、本質的には適切な評価だけです。緊急な課題であることは確かだと思います。本特集号が、この方面の研究について一端を紹介できればさいわいと思います●先頃、新聞に国立大学財政基盤調

査研究委員会による国立大学教官の直面する教育研究費の現状に関する中間報告が発表されました。それによると、国立大学の教官は、学術研究・人材養成での貢献に強い自負を持ちながら、一方で、8割を越える教官が多方面におよぶ財政逼迫に強い危機感をいだいているということでした。そこでは大学の活性化の方向として、情報公開・自己評価に関しても触れられていましたが、このことは、研究を客観的にマネジメントする方法の必要性がますます重要になるであろうことを端的に示していると思われまます●九州での春季大会(5月8、9日)で森村先生も強調されていましたが、現在時限的に設置されている文部省科学研究費「一般研究(C)社会システム工学」へのいっそうの応募が望まれるとのことです。これも1つの「研究開発」の側面でしょう。

(木嶋 恭一)

本誌に記載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

## オペレーションズ・リサーチ

平成3年6月号 第36巻 第6号 通巻366号

代表者 岡 久 雄

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会  
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
電話 03-3815-3351(代)FAX 03-3815-3352 〒113

編集人 高 森 寛

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 950円(本体922円, 郵送料含)年間予約購読料10,800円(税・郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)、日経弘報社(3563-2241)へ